



高巢 泰廣議員

「まちづくり基本計画・後期計画策定」に
どう取り組むのか。

[町長] 多くの重要問題を掲げていることを
受けとめ、後期計画を示したい。

問 町づくり基本計画は、前期5年の成果と課題を踏まえ、後期計画策定にどう取り組むのか伺う。

答 (町長) 平成20年にまちづくり基本理念、将来像を策定し、本年度前期終了年度となるために、平成25年～29年度迄の計画書策定を進めている。策定に当り前期計画で示した施策の達成度、今後推進する施策等を把握の為に住民アンケート調査を実施した。

又、昨年度から行政評価システム事業を導入し、施策ヒヤリングを行い、これを基に計画案を策定して、町振興計画審議会で付託審議の上取り組んでいく。

問 行財政運営計画への長期的展望に立った方策を伺う。

答 (総務課長) 平成18年度より10年間、年5億円超の交付税が増額となっているが、28年度より減額交付となる為に基金の取り崩し、事業の見直し、扶助費等増大する社会保障関連経費等について負担金のあり方について再検討を図り町民が安心して暮らせる、町づくりを目指したい。

問 町立病院の現状と医師確保及び今後の対応について、又、医系大学生に奨学金制度

を創設してはどうか伺う。

答 (病院長) 町立病院の常勤医師は外科医2名、内科医4名、非常勤医師(小児科・整形外科・脳外科医)等20名で外来・土日曜の当直を担当している。

病院必要医師数は病院規模により医師法で決まっている。当病院は5名強必要で医師法で定められた定数は確保出来ている。

医師は大学の医局からの派遣幹旋であり、私も大学医局の人事異動で赴任している。今後の対応として、大学医局との良好な関係を続ける必要がある。

医師を増やしたければ医局に依頼するのが一番、ただ大学も医師不足に悩んでおり増員は非常に困難で、現状当病院では当病院に興味のある医師を個別に探している状況である。

県の中核病院から僻地の病院に医師を派遣する制度を開始したので当病院も参加する予定である。

次に医系大学進学者への奨学金制度は医師確保対策として、奨学金制度を設けている病院がある。

公立玉名病院、荒尾市・山鹿



市民病院等で始めており数名の参加者がいる。当制度は始まったばかりである。

町立病院は当制度は始めていないが将来医師確保の対策として重要な方法と考えている。



小山 暁議員

和水町斎場・せきすい斎苑(火葬場)
統合問題の町民への周知徹底は?

[町長] 今後しっかりと
説明を重ね取り組む!

問 和水町斎場・せきすい斎苑(火葬場)両施設の今後の計画と町の方向性について。

答 (町長) 二つの施設とも昭和50年に供用開始してから既に30年を迎えようとしているが、火葬炉等も老朽化が進み、維持管理の増大等々検討しつつ、現在二つの施設を統合し、建て替える方向で進めている。

答 (税務住民課長) 3月と4月の議会全員協議会で、両施設の現状と課題等について説明し、和水町斎場を廃止し、せきすい斎苑に統合するという方向性を示した。

なお、5月15日の代表区長会議でも同様の説明を行い、6月28日の三加和地区の区長会では、両施設の現場視察と現状説明会を開催した。

その折り、区長会だけの説明ではなく、地元住民の意見を集約してもらいたいという要望があったので、9月いっぱい意見の集約をお願いしたい。

問 現在、既存の火葬場問題については、9月までに各行政区毎に意見の集約を行うことになっているが、いまだに何の説明もない地区がある。

町民への周知徹底は、この際是非やってもらいたいと思



和水町斎場



せきすい斎苑

うが、現状をどこまで把握しているのか。

答 (町長) 現在、三地区で行っているが、あとは9月25日の一つの区で予定されている。

方法としては、区の常会や区役あるいは、小組合単位の回覧等により周知されている。

9月27日には、区長会が予定されているので、再度両施設の現状と今後の方向性について説明をし、周知徹底を図りたい。

問 三加和地区住民の中には、現在の和水町斎場を整備してそのまま使用してもらいたいとの意見もあるのでは、地域住民感情等を十分考慮された上で、総合的に慎重な判断をお

願いたい。なお、本計画の最終的な判断と決定の時期は、いつ頃になるのか。

答 (町長) 住民の知り得ない部分や行き届いてない部分もあるかと思うが、今後しっかりと説明を重ね、要望、指摘に沿って取り組んでいきたい。なお、最終的判断は今年度中に和水町の考え方がまとまるならば、次年度から協議会を立ち上げたい。

その他の一般質問は、次の通り。

◎日本入初のオリンピック選手『金栗四三氏』の顕彰について

◎田中城跡の保存管理計画策定について